情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会 放送業務委員会(第 44 回)議事概要(案)

日時:令和4年2月17日(木)15:00~16:10

場所: Web 会議(Webex)

出席者:

都竹主查(名城大学)、伊丹主查代理(東京理科大学)

赤羽専門委員 (NTT 未来ねっと研究所)、岩田専門委員 ((株)テレビ東京)、

浦野専門委員(日本テレビ放送網(株))、児玉専門委員((一社)電波産業会)、

下地専門委員 (パナソニック(株))、寺田専門委員 (日本放送協会)、

内藤専門委員((株)KDDI総合研究所)、西田専門委員(日本放送協会)、

廣野専門委員((株) フジテレビジョン)、深澤専門委員((株) TBS テレビ)、

藤井専門委員(日本放送協会)、三木専門委員(三菱電機(株))、

山影専門委員 (東芝インフラシステムズ(株))

事務局:

総務省 情報流通行政局 放送技術課

近藤課長、武馬技術企画官、高橋補佐、高橋係長、伊地知官

【配布資料一覧】

資料 放-44-1 放送業務委員会(第43回)議事概要(案)

資料 放-44-2 2022 年 2 月 ITU-R SG6、各 WP、TG6/1 会合の概要

資料 放-44-3 放送業務 WG における検討結果

資料 放-44-4 外国寄与文書審議表(案)一覧

資料 放-44-5 日本寄与文書(案)一覧

資料 放-44-6 ITU-R SG6 関連会合への対処方針(案)

資料 放-44-7 今後の検討スケジュール(案)

資料 放-44-8 国際電気通信連合(ITU)2023 年世界無線通信会議(WRC-

(参考資料) 23)の議題一覧(第 146 回情報通信審議会情報通信技術分

科会資料一部抜粋)

資料 放-44-9 放送業務委員会構成員名簿

(参考資料)

資料 放-44-10 2021 年 10 月 ITU-R SG6 会合後に承認された勧告等

(参考資料)

※下線部の資料は構成員及び関係者限り。

議事概要

1. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

2. 前回議事概要の確認

都竹主査より、資料 放-44-1「放送業務委員会(第 43 回)議事概要(案)」に基づき、第 43 回放送業務委員会の議事概要が確認された。議事概要案について構成員からの意見はなく、案のとおり総務省 HP に掲載することとなった。

- 3. ITU-R SG6、各 WP、TG6/1 会合への対処
- 3.1. ITU-R SG6、各 WP、TG6/1 会合の概要

事務局より、資料 放-44-2「2022 年 2 月 ITU-R SG6、各 WP、TG6/1 会合の概要」に基づき、次回の ITU-R SG6、各 WP、TG6/1 会合の概要が説明された。

3.2. 外国寄与文書への対処案

西田専門委員(放送業務 WG 主任)より、資料 放-44-3「放送業務 WG における検討結果」及び資料 放-44-4「外国寄与文書審議表(案)」に基づき、外国寄与文書の審議表案が説明され、案のとおり承認された。今後提出される外国寄与文書への対処については、審議表案を作成してメールにて審議を行うことが主査より提案されて承認された。

質疑の概要は次のとおり。

【6A/241 Annex 18 レポートITU-R BT. 2385改訂草案「地上放送システムが環境に与える影響の軽減」】

都 竹 主 査: LCA 法により環境負荷を評価して電力消費量を削減すると記載があるが、LCA 法

について教えてほしい。

西田専門委員: ITU-T SG5 で勧告が策定されている方法論と同じものと考えられるが、日本では

これを使用した分析は進んでいない。方法論を含めて把握していく必要がある。

都 竹 主 査: 放送も SDGs を考えていかないといけない。

3.3. 日本寄与文書案

西田専門委員より、資料 放-44-3「放送業務 WG における検討結果」及び資料 放-44-5「日本寄与文書(案)」に基づき、日本から提出される予定の寄与文書案が説明され、質疑の後、それぞれ案のとおり承認された。質疑の概要は次のとおり。

【C1 低域効果(LFE)の運用指針 低域通過フィルタによって生じる群遅延に関する考察】

浦野専門委員: LFE は実用化されてから時間が経っているが、今回の提案の背景を教えてほし

い。

西田専門委員: NHK 技研で測定を行う中で、新たに気づいた問題点があった。それを詳細に測

定・評価して得られた知見を世界に紹介し、留意事項としておくべきと考えたの

が背景である。

【C2 レポートITU-R BS. 2159改訂提案 マルチチャンネル音響技術の家庭用、放送用アプリケーション】

都 竹 主 査: メタデータを用いたコンテンツ制作事例として、琴のほか鼓やかけ声といったコン

テンツ事例が記載されているが、なぜこのコンテンツを使用したのか。

廣野専門委員: いろいろな楽器を使って制作した中で、日本の文化を伝えるという意味合いも

あり、和楽器を取り上げている。

【C4 レポートBT. 2420へのボリュメトリック映像撮影に関する追記提案 先進的没入・体感メディアシステムのユースケース集】

都 竹 主 査: メタスタジオとは、複数の RGB カメラや偏光照明・カメラを使用して物体の空

間的な情報を撮影するためのスタジオのことか。

西田専門委員: 被写体の立体的な形状を撮るカメラと被写体の反射の状態を撮影するカメラを

使用している。最終的には被写体表面の光学的特性まで撮影することを目指している。メタスタジオは NHK 技研で使用している用語であり、世界には通じな

いかもしれない。

【C5 テレビ番組制作における画面アスペクト比の検討】

浦野専門委員: 16:9以外のアスペクト比の標準規格はあるのか。

西田専門委員:ハイビジョンや 4K/8K は 16:9 しか規定はない。スマホで撮影した映像を放送で

扱う事例も増えている中で、制作フォーマットとして 16:9 以外の必要性を問い

かける。

浦野専門委員:現状、16:9以外の規格があるわけではないと理解した。

下地専門委員: 現時点で日本として16:9 以外の規格を積極的に決めていきたいのか。

西田専門委員:提案者は、将来的には 16:9 以外の制作フォーマットがあっても良いと思ってい

る。しかし、国内外の制作者が乗り気でなければ、ごり押しするものではない。

都 竹 主 査:16:9 以外のアスペクト比の需要があるか、問いかけるものであることと承知し

た。

西田専門委員:スマホ向けにコンテンツを配信する際に、縦長で制作するケースはすでにあるの

で、これを放送に持ってくるかが課題と認識。

3.4. ITU-R SG6、各 WP、TG6/1 会合への対処方針案

事務局より、資料 放-44-6「ITU-R SG6 及び各 WP 会合への対処方針 (案)」に基づき、会合への対処方針案が説明され、案のとおり承認された。

4. その他

今後のスケジュール

事務局より、資料 放-44-7「今後のスケジュール(案)」に基づき、今後のスケジュールが説明された。